

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第181号

Nanae Historical
Museum Collection

ななえ古写真物語

VOL.181

情報化する史料

七重官園写真帖より

明治10年頃

鳴川地区か？



「牧牛場の牧草畑で二頭牽モーアを使用して刈取中」という手書きのボールペン字が、写真のマウント（外枠）部分に記された写真。40葉以上の写真がつづら折りとなった冊子の表裏に貼られた『七重官園写真帖』は、明治10年頃に撮影されたものと考えられているが、一体いつの段階で、この文字が記されたのかは不明である。

おかげで、馬が引っ張っているのが、モーアという農器具なんだとか、草を刈り取っているんだとか、モーアという機械は草を刈るのに使うんだといった情報が、画像からうかがい知ることができる。

しかし、よくよく考えてみると、資料に直接文字を記したり、シールや付箋をはって文字を書き入れたりといった行為は、今の時代、ご法度で考えられない非常識な行為とみなされる。だから、仮に収集後に記されたものであるなら、とてもおおらかというか、大胆な行為と言っても過言ではない。

当館には、そういう資料が収蔵品の中に多数ある。例えば、和綴じされていた古文書がほどかれて、一枚ずつクリアファイルに入れられていたり、ハードカバーの写真帖から剝がされ、小さなビニールの小袋に入れたり。

思うに、収集したモノを、コレクションとして扱うか、後世へ伝える資料ととらえるか。わずかな意識の違いが、結果として保存の方法や取り扱いの差につながっているのだと、最近感じている。特に戦後から平成にかけて収集された資料は、往々にしておおらかな扱いのものが多く。これは郷土の歴史を知る手がかりとして収集された史料が、研究することが目的となり、史料の保存状態は二の次になったと想定すると納得がいく。

実際、そういったコレクションに支えられて当館の収蔵品は多様な分野の多種にわたる資料で構成されているし、研究成果である文献によって歴史をよりリアルに伝えることができている。そういった蓄積があって歴史が紡がれてきたのだ。

翻って現在。この歴史館だよりのような媒体は、ネット上でも閲覧できる時代となった。資料のデジタル化が新たな保存・活用方法として一般化した結果である。便利な一方で、情報化した史料が知らぬ間に転用され続け、出典はもとより、来歴もあやふやになってしまう恐れもある。だから私たちには、情報の真偽を見極める知識が、今まで以上に、必要な時代になったといえる。

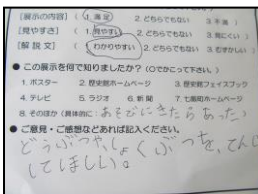
7日 夜の博物館が始まりました。

第一回目は「ななえの巨人たち」と題し、七飯にゆかりのある二人の人物を取り上げ、当館学芸員がお話しました。一人目は宮川勇氏。任侠の世界で生きた彼は身銭を切って、大沼の観光振興に尽力しました。もう一人は、田中清玄氏。七飯町で生まれ、戦後のフィクサーと言われた彼の境遇や関わった人物、時代を見据えた豪胆な動きを含め、その深い人物像に迫りました。ちょっとディープな夜の博物館となりました。



展示の「声」を聴く。

3年ほど実施していなかった展示鑑賞のアンケートを再開した。手書きの文字は、パソコンの味気ない文字よりも数段に温かい。年齢や住まい、展示の評価などを記載していただいているが、なるほど！と思うアドバイスやときには厳しい意見ももちろんある。展示していた資料にまつわる思い出や保存方法についてのお褒めの言葉、次回の展示についての要望など、届く「声」を通じて、展示だけではなく、館内の環境づくりにも活かしていきたい。



24日 かまくら作りな一日

この日は、ジュニア探検クラブでかまくら作り挑戦しました。この時期に、雪が積もっているか心配でしたが、幸いにも一週間前あたりから、降った雪が残っており作業が出来る状況でした。まずは、みんなで円形に地固めして、その周りの雪を集めて山を作っていきます。少しづつ山を大きくしたら、居住空間のため横穴を掘りました。ほぼ半日かけて作ったかまくらの中は、静かで少し温かかった。そんな記憶を持ってほしいと思います。

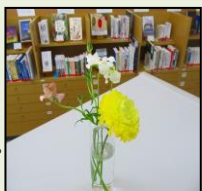


1	水	夜の博物館 第3夜
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	建国記念の日
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	ピチャリ第182号発行
21	火	
22	水	
23	木	天皇誕生日
24	金	
25	土	ジュニア探検クラブ
26	日	
27	月	
28	火	

※2月の休館日はありません

ランタンキュラス

学習室には、ときどき花を添えている。外は白い世界でも、室内に彩りがあるのは、何となく心が明るく染まるような気がしている。写真はランタンキュラス。町内でも栽培されている。花名は葉の形からラテン語でカエルを意味します。



編集後記 ~tawagoto~

東京に住んでいた頃、仕事帰りにときどき神田の古書店街に行っていた。雑多なビル街の職場とは違って、そこは落ち着ける場所だった。数ある古書店の中でお気に入りだったのは、児童書専門店のお店。狭い店内には床から天井までびっしりと本が並んでいる。懐かしさと新たな出会いとが同居しているその空間は、子どもの頃を思い出す時間だった。幼い頃からの読書の経験は後に大きな財産となる。良書との出会いを今年も提供したい。

Pichari ~ピチャリ~

第181号

令和5年1月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp